



2010. 7. 18  
No.34



# 結 y u i

発行「憲法9条の会つくば」

〒305-0005

つくば市天久保 1-10-121-401

電話 090-3811-3753

Fax 029-857-6978



<http://peace.arrow.jp/tsukuba/>

## 核廃絶、 道半ばなれど



村上啓子（牛久市在住・エッセイスト/8歳で被爆）

NPT（核拡散防止条約）は、1967年以前に核保有をしていたアメリカ、イギリス、ロシア（旧ソ連）、フランス、中国が、これら以外の国が核兵器を保有して核戦争の危険性を阻止することを目的としたもので、1970年3月に発効した。

その後、核保有国が増え、疑惑国が浮上してくるに従って NPT 体制が揺らいできたのを受けて、1995年から5年毎に再検討会議が催されることになっている。

今年5月3日から28日まで、再検討会議が開催された。私は、その会期に合わせて展開される国連教育機関の一つ「ヒバクシャ・ストーリーズ・プロジェクト」に招聘され、5月16日から10日間、ニューヨークにいた。近辺の学校、対話集会のほか、各種団体が催す学習会などで被爆体験を語り、原爆の実相を述べて核兵器廃絶を訴えた。



NYで欧州反核グループの若者達と交流

中でも、ピースボートは頼もしい限りだった。その一例は、マンハッタンの中心部・ブライアント公園での対話集会だった。世界各地から来た若者たちが世界平和への実践者になると共感しあっている姿があった。別の一例は、08年秋の3か月余り、被爆者103名がピースボートで「地球一周証言の旅」をした記録映画の上映だった。今後、世界各地で上映され、核廃絶へと世論を高めてくれるだろう。

26日夕刻、アリゾナに移動した。日本人アーティスト小塩賢企画の「千羽鶴の旅2010」は翌朝からスタートした。幾種類もの太鼓、ギター、三線、米、炊飯器、着替えの衣類を詰め込んだ大型ワゴン車はアルバカーキへと向かった。屹立するサボテンを眺め、雲のない青空を仰いだ。時折、ガソリンス

核拡散防止条約(NPT)再検討会議の最中、ニューヨーク入りした被爆者が若者達に被爆体験を語った、とネットニュースが伝えました。交流後「被爆者の言葉を、再検討会議に出席している人たちはもっと聞くべきだ」と話す若者達、アメリカでの平和行脚の様子をご紹介します。

タンンドで給油し、トイレを借りた。

午後4時、国立原子力歴史科学博物館を会場に「千羽鶴の旅2010」の開幕である。

賢さんの掛け声を合図

にずらり並んだ和太鼓が怒涛のように響きわたる。三線、篠笛、歌が続いた後は、私が被爆体験を語る番である。ヨーコ・セトさんの淀みない通訳に感謝。デリックスワイマさんのフープダンスが始まるころ、私は新聞記者に掴まっていた。

アラモゴードとアルバカーキの核関連ミュージアムでは賓客扱い。ナバホ居留区ではウラン鉱で被曝された家族の話を聞いた。ホピ居留区では伝説に聞く岩絵も解説付きで見ることができた。グランドキャニオン、セドナ、フラッグスタッフを巡ったのは、賢さんからの私へのプレゼントだった。行き着く先々に彼の仲間がいて、ホームコンサートが夜更けまで続いた。昼間は「凄い、凄い」を連発しながら疾走する車の窓から景観を楽しんだ。

アメリカでの最終回、アリゾナ歴史科学博物館の催しは、ロサンゼルス高野山から陸路運ばれた「ひろしまの灯」が点火され、厳粛に幕が開いた。休憩時間ですら、野外で空手や合気道の演技が披露され、焼きそばや餃子の露天店が現出した。

語りつくせないほどに報告し

たいことが山ほどある。それらは、8月3日、ノバホールのステージから伝えさせて頂きたい。それが、ヒロシマ・ナガサキへとつながる「千羽鶴の旅2010」日本ツアーの幕開けであるから。



アルバカーキ会場でケン・ゴシオさんと村上さん



アリゾナ会場に展示されたヒロシマ・ナガサキ写真を観る人たち



## 憲法9条は人類共存の指針

樋田幸夫（憲法9条の会つくば・代表）

する」と志賀直哉は書いている。生き物に限らず、宇宙を含め、すべてのものが時間的存在と考えるべきで、科学者はよく「時空」という言葉を使う。このような、いわば物理学的思考と「憲法9条」との関係をいぶかる方もおられるかと思うので、以下に「時間的存在」と「憲法9条」との密接な関係についての試論を述べさせていただきます、ご討議、ご考察の対象としていただければと思う。

人は、あるいは生き物は他者や他個体の命を奪って生きてきた。その最たるものが人間の戦争である。「己の命は有限である」ことを知っている人は誰しも「一回限りの己の命を全うしたい」と考えているだろう。その命を奪うことが、どんなに残酷で、取り返しのつかないことであることかを、人類はもっと深く認識すべきである。

現日本国憲法は主権在民、平和主義、基本的人権の3大柱から成ることはご存知の通りだが、主権在民も基本的人権も平和主義が崩れたら、すべて台無しになってしまうことは、かつての日本軍国主義の実態をみれば明らかである。この意味で憲法前文の精神とこれを生かす「憲法9条」の存在がとりわけ重要な意味をもっている。

「すべての人が限りある命を最後まで生きることのできる」「すべての生物が人類の暴挙で死滅することのない」「人を含む生物が生きる環境を壊さない」地球にしようという点では、国際世論は一致できよう。その指針となるのが、「日本国憲法前文と第9条」であり、これほど平和主義を明文化した憲法を有する国は他にない。私たちは、いずれ世界諸国が後に続くであろう、この憲法第9条を守り、生かし、広げる運動に携われることを光栄に思いたい。



## 「憲法9条の会つくば」の活動から

会ではつくば市有権者15万人の過半数獲得を目標に「憲法9条を変えさせない」署名に取り組んでいます。毎月第1日曜にアルス前、クレオ前などで署名を行ない、昨年6月には署名3827筆を国会に提出し、これまでの国会提出総数は7061筆になりました。

◆賛同人 2010年7月5日現在  
総数748名（市内562名）  
◆9条署名 7月14日現在 8768筆

### 定例署名行動と母親大会にて

6・7月の「定例街頭署名行動」では、荒牧さんの「日本の抒情歌」ライブをバックに多くの方と対話をしました。6月の行動で、演劇サークルの若者たちが「平和だから演劇活動ができる。憲法9条を変えてはならない」と揃って署名をしてくれました。そして署名する自分たちの写真を撮り、さらにピースサインをして私を囲んでパチリ、楽しく励まされました。1人ベンチに座っていた男性に声をかけると、「憲法9条を変えるのは反対だが、身分のわからない団体には署名をできない」と断られましたが、「九条の会」と私自身の紹介をして、お読みになってくださいとチラシをお渡ししました。しばらくして手招きをして、チラシに署名をして返してくれました。私たちの行動を信じてくださったのだと、とても感激しました。

7月街頭は参院選まただ中での行動でした。そのせいか「どの政党？」と数人の方に質問されました。クレオ前で〇〇党の街頭演説があり、それを聞きに来ていた方々へも声をかけました。「〇〇党は憲法を変えないとは言っていないが、『恒久平和を定めた9条』は変えない」と言い、揃って署名をしました。「本当に、そうしてくださいね」と心でつぶやきながら、



「憲法9条を守るという1点で共に行動しましょう」と話しました。

恒例の市母親大会行動では、今回も実行委員の皆様を始め、まつぼっくり親父の会など多くの方にご協力を頂きました。呼びかけていると「頑張って！応援してるよ！」の声があり大いに勇気を頂きました。

署名行動を始める前は気が重いのですが、いつもフレッシュで和やかな出会いがあり励まされます。そしてまた頑張ろう！と前向きな気持ちになります。皆様も一緒に！（伊藤）

### 「どうするアンボ」を見る



—5月16日学習会報告

日米安保条約とは何か、どんな問題がおきているのか、どんな闘いがおきているのか、など、基本的なことを網羅したDVD。街頭インタビューに答える人たちが、安保条約についてほとんど知らない、ということが気になる一方、沖縄の人たちがお年よりから若い人たちまで、基地、平和について熱をこめて語っている姿がとても印象的だった。普天間問題がクローズアップされている今、沖縄の人たちに連帯して、ことの本質を多くの人たちに知ってもらいたいと思った。このDVDをあちこちで活用できると思う。（阿部）

## 平和と9条がテーマのイベント



30名を越える参加者が映像資料を食い入るように見つめ、谷田部航空隊の生存者の証言、亡くなった方たちの姿を胸に刻みました。

### 谷田部の戦争の歴史を考える—つくば市母親大会分科会

自分の子どもとあまり変わらない年齢の若者が特攻隊として出撃し、37名の方が亡くなりました。志願しなければならなかった当時を思うと胸がつぶれます。つくば工科高校の生徒と先生が作った「谷田部海軍航空隊」の記録DVDは本当に貴重な映像で、元特攻隊員の方の話を丁寧に引き出されていて、大切なことを学びました。涙を流しながら「特攻隊の歌」を歌われた隊員の方が、酔うと軍歌を歌っていた私の父の姿に重なりました。

こんな青春時代を過ごさなければならない時代が二度と来ませんように心から願います。そして、これら事実を次の世代に伝えていくことの大切さを痛感しました。(三谷)

### 井上ひさしさんの志を受けついで—「九条の会」講演会

「九条の会講演会」に行けたら行こうそんな気持ちでいたら、小田実さんに加藤周一さん、そして井上ひさしさんが亡くなられてしまいました。「九条の会」の呼びかけ人として命がけで最後の最後まで戦いながらメッセージを発信し続けていた皆さんのお話が聞けなくなって残念に思います。私は「憲法9条の会つくば」の呼びかけ人ですが、改憲反対、戦争反対、9条を守る等などのかけ声程度の気持でした。つくば9条の会の設立の頃の集会で、「9条を守るということは天皇制にも関わりがある」というお話を聞いて、自分があまりにも認識不足だったと思い、それからは「なぜ、どう9条を守るのか」の答え探しをはじめました。とりあえず加藤周一さんのメッセージや著作を読むことにし、朝日新聞連載の「夕陽妄語」も読み始めていました。しかし08年7月が最後になり、12月になって訃報を知りました。この時は少し力が抜ける思いでした。そして井上さんの訃報でした。そして今度こそは「九条の会」講演会に行くことにしました。

大江さん、奥平さん、井上ユリさんのお話に続き、梅原さんと鶴見さんのメッセージが読み上げられ、井上ひさしさんがとても言葉を大切にしていたことが話されました。澤地さんは「モグラたたきに例えて、たたかれてもたたかれても九条の会を増やしましょう。そして最後の1人になっても頑張っていきます」と話されました。続いて秋田の佐藤修三さんが、ユリさんが「井上さんの思いがすべて表現されている」と話された「吉里吉里人」の一節を朗読しました。本当に暖かいことばの何度も聞きたくなるような朗読でした。閉会挨拶では、それぞれの地域で九条の会が手をつないで活動できるようにしましょうと呼びかけていました。なかなか「活動の輪」の中に入れないでいますが、一步前向きになれた1日でした。(菅原)

### NPT 再検討会議と平和の流れ、憲法9条

#### —「研究所・大学関係9条の会」講演と対話の集い

日本平和委員会の川田忠明氏は、今回のNPT再検討会議と普天間問題について、「抑止力」、特に「アメリカの軍事的抑止力」によって日本の平和と安全を守るという考え方の観点から講演されました。川田さんは今回のNPT会議で、日本をはじめとする「反核市民運動」が世界を動かしていることを強く実感したそうです。今や「核抑止力」によって自国の平和を守るという政策はほとんどの国で拒否されてきているようで、日本は被爆国であるにもかかわらず、いまだに米国の核の傘から抜けられないでいると話されました。普天間基地問題についても、米軍による「抑止力」という嘘と現実を具体的に説明しました。また世界的に外国軍が撤退している例の8割以上がその国の「政権交代」であるという元駐日米大使補佐官の報告を示し、日本政府が国民と沖縄県民の民意を尊重して、ひとことNO!と言えれば米軍は撤退すると話されました。真に「戦争を抑止する力」は軍事力によらない安全保障であり、それが正に「憲法前文」の精神であり、現実には世界の流れは仮想敵をもたない脱軍事同盟の世界であることを東南アジア諸国連合共同体等の豊富な事例をもって示されました。私たちの「9条運動」への大きな確信となりました。(伊藤)

日本原水協が届ける690万筆を超える反核署名をNPT会議議長自らが受け取ったという報告、市民運動の力が反核への大きな力となっているというお話が印象的で



昔のことをよく憶えている人に出会うことがある。以前読んだルビンシュタイン自伝「華麗なる旋律」のはしがきに“私が自分の生涯をほとんど一日刻みにさかのぼれるのは、私がものすごい記憶を授けられた幸運のおかげである”とある。私についていえば、なさけないことに人一倍記憶が弱く、戦中、戦後のことも断片的にしか思い出せない。

子供時代を大阪郊外で育った私は、疎開や直接の空襲といったものには関係なく過ごせたが、それでも空襲警報、警戒警報のサイレンにはおびえ、睦にうつぶせになって手で目と耳を覆う訓練をさせられたものだ。空を飛ぶB29もよく見たし、伊丹空港爆撃の流れ弾に当たって死んだ人もいた。戦況の悪化につれ、防空壕作りや竹やり訓練が行われたが、それでも大人たちは“いざとなれば日本には神風が吹く”と本気で信じていたようだ。

終戦を迎えたのは小学校(国民学校)5年のときだが、その頃の記念写真を見ると、皆痩せて頬がくぼみ、服も粗末で、最前列の数人は素足にわらじ履きだ。それまでの教科書はあちこち墨を塗って使った。学校もなんとなく荒れてきた。20代の若い教師が赴任してきて、ちょっとでも私語をしようものなら容赦なくひっぱたかれた。クラスでひとり悪いも

のがいても、全員が前に並ばされ、ビンタをくらった。予科練帰りだから気が立っているのだと噂された(事実はそうではなかったようだが)。



同学年のなかで喧嘩の強い2派が対立し、どちらかに属さないといじめをうけた。ボス同士が川原で“決闘”したこともある。一方の派に、元は転校生だった愚鈍(そう)なT君がいた。皆がからかうなか、私もつい調子にのって「オイ、コラ」と頭をつついた。それまで見ていた相手のボスが、「T、やれ!」と命じた。それで私と彼との取っ組み合いになった。簡単にやつつけられると甘くみていたのが失敗だった。転がされ、馬乗りではげしく殴られた。あわれな顔で帰った私に母がどうしたのかと聞いたが、転んで怪我をしたと言い張った。弱い(と思った)者に手を出し、惨めな負け方をしたのが恥じられた。私が暴力を憎み、さらには戦争を憎むようになったのはそれ以来だ。

人類の歴史の大きな流れのなかでは、戦争はなくなりつつあると思う。それでも今なお世界の各地で戦争がつづき、殺し合いが絶えないのは悲しいことだ。私は理屈抜きにいかなる戦争にも反対する。

求む  
賛同!

「憲法9条の会つくば」は「九条の会」が発表したアピールに賛同し、憲法9条を守るといふ一点で手をつなぎ、憲法9条の精神を世界に輝かせるために活動を行ないます。多くの皆様に、賛同人になって会の活動に協力して下さいますようお願い申し上げます。

\*メール、またはファックスでお名前、ご住所、電話番号をお知らせ下さい。隔月で会報誌「結」をお届け致します。会の運営は賛同人の方々のカンパで成り立っています。入会金、送料などは頂きません。



行動予定

- 8月1日(日):定例署名行動 11時半~13時 中央公園アルス図書館前集合
- 8月6日(金)8:15、9日(月)11:02 北斗寺、長寿館(9日のみ)にて 平和の鐘一振り運動
- 8月9日(月):9の日署名 16時~17時 つくば駅前周辺
- 8月20日(金):事務局会 19時~21時半 手代木公民館
- 9月5日(日):定例署名行動 11時半~13時 中央公園アルス図書館前集合
- 9月19日(日):世話人会 10時~12時 手代木公民館



絵手紙



▼文芸9条 ほっとタイム

結「文芸9条 ほっとタイム」では、俳句・短歌・絵手紙・詩などの作品を募集しています。

## ハンナのかばん

アウシュビッツからのメッセージ

カレン・レビン著  
石岡史子訳  
ポプラポケット文庫

第2次世界大戦中、アウシュビッツのガス室で13年の生涯を終えた、ハンナ・ブレイディ。

半世紀後、偶然ハンナが残した旅行かばんと日本で出会った、石岡史子。

ハンナはどんな少女だったのか。そして、彼女に何がおきたのか。史子のハンナ探しが始まった。

## ◆1930年代、チェコスロバキア

ハンナは、1931年5月16日、チェコスロバキア(当時)に生まれました。兄ジョージは3歳年上の1928年生まれ。父カレルは町のスポーツ行事を主催したりする活動的な人で、母マルケータは明るく社交的でブレイディー家が経営していた雑貨屋はいつもにぎわっていました。ハンナとジョージの祖父母はユダヤ教徒で、町ではユダヤ人の子どもは二人だけでしたが、キリスト教徒の子どもたちと仲良く暮らしていました。1933年、ヒトラー率いるナチス党がドイツの政権を握ると、ユダヤ人迫害が始まります。1939年、チェコスロバキア侵攻後、ユダヤ人に対する様々な禁止条例のもと、二人は学校へ行くこともできなくなり

ます。1941年、ハンナの家族に大きな悲劇が訪れます。まず母が、半年後には父も収容所に送られます。そして1942年、二人にも収容所への移送命令が届きます。旅行かばんに洋服などをつめて荷造りし、二人はテレジン収容所へ送られました。



ハンナ・ブレイディ

二人はそこで約2年間を過ごしますが、1944年秋、ナチスの敗戦が色濃くなり、絶滅収容所へのユダヤ人の移送が加速します。9月、ジョージがポーランドのアウシュビッツ絶滅収容所に送られました。10月、ハンナもアウシュビッツに送られることとなります。兄との再会を信じて再び自分のかばんを手に取り、喜んで貨車に飛び乗りました。しかし13歳のハンナはアウシュビッツに到着後まもなくガス室に送られ殺されました。

去る4月18日(日)カピオホールにてつくば子ども劇場第121回高学年例会として劇団銅鑼による「ハンナのかばん」を上演しました。見終わった親子の感想には「子どもと一緒に観てよかった。忘れてはいけないことを思い出させてくれました」「今なお続いている戦争や紛争の理不尽さに気がつきました」「こんなこわい話が現実にあったなんて、ハンナちゃんがかわいそう」などが寄せられました。ぜひ親子で読んでみてください。

(つくば子ども劇場 石隈)

\*参考「ハンナのかばん スタディガイド」

NPO法人 ホロコースト教育資料センター

## イベント情報

## ◇「いのちの山河—日本の青空Ⅱ」上映会

7月28日(水) ①10:00~12:00 ②13:00~15:00 ③16:00~18:00 ④19:00~21:00 4回上映

場所:つくばカピオホール

前売券:一般1200円、60歳以上1000円(当日はそれぞれ200円増)小中高校生800円/主催:つくば「いのちの山河」を観る会/連絡先:平野029-852-4118(昼)久保090-6569-5938 野崎090-4074-4964

## ◇流山平和都市宣言・終戦65周年連続公演

第1弾7月31日(土)14:00~15:30

女優たちによる朗読劇「夏の雲は忘れない1945・ヒロシマ ナガサキ」

第2弾8月7日(土)18:00~19:30

ピアノ・ソナタ「月光」による朗読劇「月光の夏」

場所:流山市文化会館大ホール

TX「流山おおたかの森」駅からバス便あり/入場料:前売2000円/当日2500円/ペア券3500円/小学生~高校生1000円 全席自由

連絡先:流山市文化会館 04-7158-3462

## ◇朗読劇 ヒロシマ・ナガサキ「この子たちの夏 2010」

—ギター、フルート、オカリナの生演奏と共に

8月1日(日)14:00(開場13:30)

場所:つくば市アルスホール

主催:サラダの会朗読グループ

問い合わせ:029-887-3226(大曾根)

## ◇千羽鶴の祈り in Tsukuba 2010—村上啓子さんの語りと

米国被爆の民ホピ族のパフォーマンス

8月3日(火) ①14:00~16:20 ②18:30~20:50

場所:ノバホール

主催:戦争を語り継ぐ女性の会/入場料:前売り一般1000円(当日1500円)/障がい者・学生500円(当日700円)/問い合わせ090-7845-6599(長田)090-9108-0464(小張)

◇未来への伝言—平和の旋律 ピアノで、三味線で!  
(広島で被爆したピアノを演奏)

8月8日(日)14:00~

場所:土浦市民会館大ホール

主催:「未来への伝言」実行委員会

入場料:一般2000円、高校生以下1000円

## ◇原爆写真展・DVD映写と戦争体験を聞く会

・DVD「少年たちは戦場に送られた(満蒙開拓青年義勇軍)」/戦争体験を語る(渡辺正幸氏)

8月8日(日)10:00~12:00

場所:荻崎公民館研修室

## ・第3回原爆写真展

8月9日~12日 4日間 10:00~15:00

場所:荻崎公民館ロビー

主催:荻崎9条の会、荻崎平和委員会

問い合わせ:029-876-1545(野口)

## ◇九条の会かさま・文化講演会—落合恵子さんのお話

8月29日(日)13:00会場13:30開演

場所:笠間市笠間公民館大ホール

講演:落合恵子さん(作家、「憲法行脚の会」呼びかけ人)

参加費:事前500円(当日600円)/連絡先:TEL0296-73-0122(多崎) TEL0295-77-3639(中山)

